



## 九条の会 発足10周年記念講演会 「集団的自衛権と憲法9条」

ことは2004年6月10日に、加藤周一、大江健三郎、奥平康弘、小田実、井上ひさし、鶴見俊輔、三木睦子、梅原猛、澤地久枝の9氏による「アピール」が出されて10年目の節目。安倍晋三政権による「集団的自衛権の容認」という解釈改憲の暴走がきわめて強まっている時期に、10周年を記念する講演会が10日夜、渋谷公会堂で開かれた。公会堂を満員にする2000名以上の参加者が集まった。

韓国の金泳鎬（キム ヨンホ）さんは、アジアにおいて平和の維持に寄与していける九条の役割を、特に市民の連帯の視点から強調された。1987年の光州事件（韓国における民主化闘争の記念日の一つ）が6月10日であることに合わせて、韓国の民主団体からの連帯のメッセージを伝達された。集団的自衛権の容認ということになると、朝鮮半島の状況がきわめて重要となることから考えても、今後、東アジアの国民との連帯を強めていくことが重要だ。

翻訳家の池田香代子さんは、講演で、安倍首相が最近あちこちで強調している「積極的平和主義」という言葉の意味付けを厳しく批判された。

ビデオ上映でメッセージを送ってこられた元・内閣法制局長官の阪田雅裕さんは、戦後脈々と築きあげられてきた憲法の解釈を、一内閣が、しかも根拠不十分な状態で、国会での議論もなく、変更してしまおうとしていることを許せない暴挙で、あたかも「裏口入学」のようだ、と指摘された。

大江健三郎さんは、今年になってからは「小説家」ではなく「九条の会」の大江です、と自己紹介をされた。東大の渡辺一夫教授との出会いや加藤周一さんとの出会いを通じて、平和を維持することの重要性を指摘された。印象に残ったのは加藤周一さんがその頃の状況の中で話されたとして紹介された次のこと。「1. 長丁場を見越してゆっくり・大きくを意識すること、2. すべての問題を日常性に結び付けること → 全体において反対」という方向へ動くこと。今の情勢の中でも十分意識していかなければならないことだと思った。

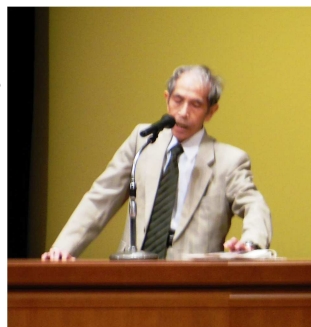
奥平康弘さんは「呼びかけ人の中の唯一の憲法学者」と自己紹介された後、安倍政権の解釈改憲の暴走を厳しく批判された。

澤地久枝さんは、三木睦子さんの思い出の中で、安倍首相は「母方の祖父(=岸信介)」だけでなく「父方の祖父(=安倍寛)」の戦中の行動にも学ぶべきだ、とされた。

最後に事務局長の小森陽一さんが今後の九条の会の行動を提起された。九条の会は呼びかけを2回発表(2回目は2013年10月7日)しているが、個々の会が自主的に活動することを建前としてきており、全国7500余りの会が動いてきた。今年11月頃をめどに全国的に運動を展開することを計画している。各地で行われる集会などをつなげて全国的な動きにしたい。  
(代田2丁目・伊東 宏)



2014.06.10



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

## “戦争する国” ごめんです。九条の会東京のつどい

6月4日、中野ゼロ・ホールで開催された「九条の会東京のつどい」に参加しました。和楽器演奏と詩の朗読、憲法コント、3人のトークリレーと続く多彩なプログラムでした。

「ざ・五人囃子」の皆さんは、鼓や笛、鉦による囃子と語りにより、東京大空襲や戦争で亡くなった方々の鎮魂と残った者の希望を谷川俊太郎の詩「死んだ男の残したものは」に託して歌い上げました。

憲法コントは松元ヒロさんです。風刺の効いた話芸が大受けでした。その中の一つ。「代議士は忙しい我々に代わって議論する人。勝手なことをするな。戦争は絶対にするな。憲法を守れよ。九条を守れよ」笑いの中で納得。

リレートークの始めは孫崎亨さんです。元外務省国際情報局長、駐イラン大使、駐イラク大使などを歴任しました。孫崎さんは、安倍政権が進めている憲法九条の解釈変更について「憲法九条の解釈は、政府自らが60年にわたって国会でも十分議論を積み重ねてきた。国民にも定着している。政府の手でこれを変更することは、立憲主義そのものの否定で、法治国家の根幹をゆるがすものだ。行使できるようにするなら、国民の可否が確認できる憲法改正の手続きに則るべきだ」と断じました。

2番目は青井未帆さん（学習院大学教授）です。「集団的自衛権について、私たちが知りたいことは何だろうか」との問いかけから始まりました。

憲法九条は、戦争放棄と戦力不保持を明言していますが、一方で個別的自衛権の行使は認めています。しかし、外部から攻撃された時に防衛するのみで、日本が日本の意志として戦争の主体になることはない自らを縛っています。

集団的自衛権が行使されれば、この状況は一転します。相手を殺すことも、また国旗にくるまれた棺が返ってくることも起こります。私たちが知りたいことはここなのです。しかし、それに対してあまりにも説明が不足しています。グレーゾーンのことよりも、もっと重要な事柄のはずです。私たちもそこに目を向けないといけません。必要な情報を出させるため、私たちの要求を政治に突きつけましょう。

3番目は小森陽一さん（九条の会事務局長、東京大学教授）で、「九条の会の運動の展望」と題した報告がありました。

九条の会が発足した2004年は、アメリカの戦略に加担して自衛隊をイランに派遣した時期でしたが、世論は改憲賛成が6割、「改憲反対」が2割と賛成派が多数でした。その後、「九条の会」の設立が全国の地域や様々な分野で起こり、2005年に3000の会、2006年に4800の会、現在では7500を超える会が結成されています。

2008年以降、改憲反対派と賛成派はほぼ拮抗しています。現在では、改憲反対の数が多くなってきています。草の根の運動が世論を動かす力となっています。

終わりに、主権者である私たちが権力の暴走を、身体を張って止めるため、手をつないで国会を包囲しましょうと呼びかけました。

最後に各地域の九条の会が旗・幟・横断幕・プラカードなどを掲げて舞台に登りました。「代田・九条の会」はプラカードによる参加です（舞台右側）。



### 集会等の紹介

8月16日（土） 正午～ 終戦記念日によせて（計画中）

69年目の終戦記念日がやってきます。

代田・九条の会では、すいとんを食べながら  
戦中の話を聞き語る会を計画しています。

会場 新代田区民センター集会室

連絡先 代田・九条の会

### 日本国憲法（抜粋）

**第9条** 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。  
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。